

# 青木村消防団広報

## KODAMA

発行／青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111  
発行責任者／杵掛啓二 編集／青木村消防団本部班

No. 33

発行：令和4年2月1日



令和3年度青木村消防団役員と退団者の皆様



### 令和四年青木村消防出初式 式辞

団長 杵掛 啓二

輝かしい令和四年の新春を迎え、長い歴史と伝統を誇る青木村消防出初式が、ここに挙行できます事は、団員と共に喜びとするところであります。団員各位とご家族の皆様に対しまして、日頃の活動とご苦労に深く感謝致します。また、御来賓の皆様におかれましてはご多忙の中ご臨席賜り誠にありがとうございます。

昨年を振り返りますと、当村におきましては当郷地区林野火災、村松地区住宅火災出動の2件、行方不明者の捜索1件の出動と豪雨による出動が1件ありました。いずれも被害を最小限の被害に食い止める事が出来ました。これも川西消防署職員の皆様のご協力と、村民の皆様の日頃からの高い防災意識そして、団員の皆様の日頃の予防啓蒙活動の賜物と深く感謝致します。しかし、これらの災害により、尊い命が奪われました。ご冥福をお祈りいたしますとともに今まで以上に消防力、予防啓蒙活動の強化を図ってまいります。

近年はいつどこで何が起るか分からないという状況が続いております。昨年も二月に福島県沖地震、七月に静岡県、神奈川県集中豪雨による熱海市土石流災害、八月に九州、北陸、中国地方を中心とした豪雨災害といった大きな災害が起りました。その中には消防団員で被災された仲間も多くいます。ご自身が厳しい状況の中、自分たちの街は自分たちの手で守る、という消防精神の下復興に臨まれる姿には強く感動致しました。また、被災されました皆様のご冥福と、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

現在、当消防団においても、消防団員の増員が見込めない中、防災技術の向上、組織づくりにより、村民の皆様へ安心安全な青木村をお届けしなければなりません。本年四月より、長年にわたり検討してきました再入団制度を施行致しました。多くの先輩方に賛同いただき実現する事が出来ました。これにより、団員数

の確保はもろんのこと、青木村消防団にとって経験ある方の加入はとて心強く思います。一方、若い団員の皆さんにも村の防災の担い手としてはもろんのこと、未来の担い手として、なお一層の努力をして頂きたいと思えます。また、新型コロナウイルス感染により、消防団活動において、ウイルス感染の恐怖がある中での災害活動、訓練にご理解頂きました団員とご家族に改めて感謝申し上げますと同時に、今迄の平穏な生活が戻ります事を願います。

また、本日お越しの来賓の皆様には、当村ひいては当消防団に対し引き続きご協力とご指導を宜しくお願い致します。我々も上小地域の安心安全の為、引き続き努力をして参る所存でございます。

そして、北村村長をはじめ村民の皆様におかれましては、防災設備の拡充、消防施設の更新、ワクチン優先接種など、当消防団の活動に日頃より深いご理解とご協力、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、ここで本日は長年消防団活動にご尽力された退団者の皆様をご紹介します。杵掛俊一朗前団長を始め、団本部、分団本部の要職を歴任された皆様、団員として常に前線に立ち続けて頂いた皆様です。長年に渡り当村の安心安全の為、ご尽力頂きありがとうございました。そして、本当にお疲れ様でした。昨年の出初式中止の際に御自分たちの事よりも我々団員を思いご理解頂いた事を通じ、やさしさと、責任感のある退団者の皆様をこうして称え送ることが出来ます事は、当団の喜びです。一抹の寂しさはありますが、今後とも協力とご指導をお願い致します。

最後に我々青木村消防団は、複雑多様化していく災害に対し、郷土愛護の精神を胸に全身全霊で立ち向かって参ります。

結びに、本日ご臨席を賜りました来賓各位、並びに団員諸君とご家族の益々のご健勝、ご多幸を又、青木村の無火災・無災害をご祈念申し上げ、式辞といたします。

# 一年間の活動を振り返って

副団長 小林 忠彦



この一年を振り返ると、再入団制度施行元年となり、18名の方に再入団して頂き、11名の方が協力員として再度、消防団活動にご協力頂けるようになりました。団員減少による負担増加が大きな課題となっておりませんが、中でも大きな希望となりました。皆様にはこの場をお借りし感謝申し上げます。

一年でした。

最後に青木村消防団を温かく見守っていただいております村民の皆様へ感謝申し上げますとともに、村の安心安全のために精進してまいりますので、引き続き、ご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



水科救護長 増田 努

村民の皆様には、日頃より消防団活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今後地球温暖化による気候変動により、自然災害が多くなる事は否めませんが、緑豊かな青木村を守る為にも、村民の皆様の応援なしでは、消防団活動を進めてまいる事は出来ません。引き続き青木村消防団を応援して下さいます様よろしくお願い申し上げます。

本部長 中澤 運仁



今年度は昨年度に引き続きコロナ禍での消防団活動になりましたが、団員の安全を考えて行動してまいりました。しかし、中止になった活動もあり例年通りとは行きませんでした。その中でも団員にとって有用な訓練もできました。火災等が多い年でしたが、消防団の団結力に改めて気付かされた



ラッパ長 落合福太郎

ラッパ長を拝命してから間もなく一年が経とうとしています。

私がラッパの訓練に参加して、初めての大会に出場した際、思うような吹奏が出来なかつた悔しさのあまり、ラッパ長の前で大泣きしてしまつた事、また、消防班長として皆の前に指揮者として立ち、上小大会での吹奏を隊員と共に感じられた事も良き思い出です。今年のラッパ隊の訓練に関しては、本部・副ラッパ長や隊員からの意見を募りながら、感染症対策の検討を何度も重ねた一年でした。この機会が、ラッパ隊の結束をより強いものに出来た一年だと思います。



警備長 松澤 秀樹

村民の皆様には、日頃より消防団活動に対し深いご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

づくりの為、消防団一丸となり精進して参りますので、村民の皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

ただきました。昨年に続き本年も、コロナ禍により消防団としての活動が大きく制限され、計画・準備していた訓練を中止にせざるを得なくなるなど、思うような活動ができないこともありました。実施できた訓練や活動は少なくなつてしまいましたが、本部役員として消防団活動にどのように向き合っていけばいいのかを考え、向き合う有意義な一年になつたと思います。

最後に、村民の皆様様の安心安全を守る消防団員として日々精進してまいりますので、引き続き温かいご理解とご協力を宜しくお願い致します。

機関長 堀内 巧

本部役員として団を運営する立場でこの一年仕事をさせてい



機関長 堀内 巧



第二分団長 関澤 久

本年度第二分団長として任命され、一年間を振り返ると、例年とは違う活動で、苦悩や楽しさ新しい知見等、たくさん事を学び得る事ができました。

第二分団は、七地区体制からなり、それぞれの地区で風土が違い、戸惑いや不安がありました。分団幹部の協力を得て、スムーズに遂行することが出来ました。また、コロナ禍の中、行事が多々中止になり、顔を合せていない団員もいますが、部ごとの活動でご尽力され、感謝の意を表したいと思います。



第一分団長 坂井 飛鳥

今年度から再入団制度が始まりました。コロナ禍で活動が制限されるなか、コミュニケーションをとる機会を設ける事もできました。出動時においては

最後になりますが、退任まで二カ月程あります。消防団活動で培った事を再認識し、日々活動していきたいと思ひます。

